

1. はじめに

(1) 研究の背景・目的

明治新政府が国家プロジェクトとして進めてきた野蒜築港計画は中止されたが、東北開発の最重要拠点としての野蒜築港の立案過程を把握する必要があると考える。本研究は、我が国明治初期において例のない野蒜築港の新市街地計画に着目し、新市街地の計画経緯、計画思想、計画特性を明らかにすることが目的である。

(2) 既存研究と本研究の位置づけ

東北開発策としての野蒜築港の港湾としての立地に関する研究は数多く存在するが、新市街地計画に着目したものはない。本研究は、野蒜築港の新市街地を計画した人物、明治時代の日本の都市計画を背景とした新市街地の計画思想に着目する。

2. 研究の方法

本研究では、野蒜築港新市街地の計画思想(第4章)、新市街地計画の特性(第5章)について、文献調査、現地調査、ヒアリング調査により客観的に把握することとする(図-1)。

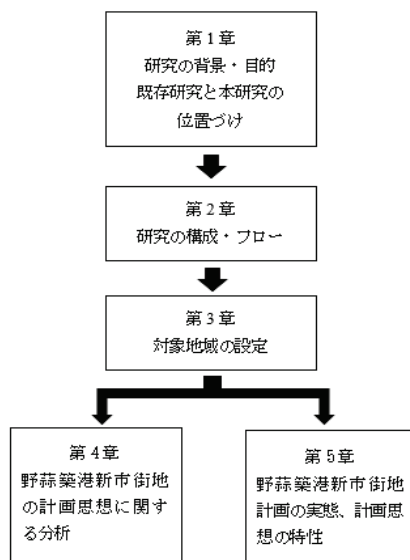


図-1 研究の方法

3. 対象地域の設定

図-2に野蒜築港の新市街地の位置を示す。



図-2 野蒜築港・新市街地の位置

4. 野蒜築港新市街地の計画思想

(1) 文献調査による野蒜築港新市街地計画の整理

文献調査による野蒜築港及び新市街地計画に関する記述を表-1に示した。表-1より明らかになった事項を以下に抽出する。

- 1) 大久保利通が石井土木教区長を野蒜に派遣した。石井がドーレンに計画調査を命じた。
- 2) 明治初期においては、オランダの河川事業の技術水準が高かったことから、野蒜築港計画の水工部門にオランダの技術者を招聘した。

- 3) 野蒜築港新市街地を計画・設計した人物はドールンである。
- 4) 新市街地の建設はオランダ人技術士アルンスト、マストリクト等によるものである。
- 5) 市街地之図の面積は 10 万 5000 坪であり、内務省が区画したものである。

表 - 1 野蒜築港及び新市街地計画に関する文献記述

大久保利通が石井土木局長を野蒜に派遣し、そこで石井がファン・ドールンに計画調査を命じた。	松浦茂樹 上林好之	東北開発の期待を担った野蒜築港の放棄に係る内務省首脳とオランダ人技術者 水利科学 No.218 第 38 巻 3 号 p73
工事の技術面は、主任工師ヴァン・ドールン以下、工手マストリクト、同アルンスト、職工長ウィール外数名、いずれにもオランダ人が担当した。(p82)	田村勝正	開発の歴史地理-野蒜築港と近代東北の開発を中心に- 大明堂
面積 10 万 5000 坪の土地が造成された。これは工事の進捗に従い内務省で区画し、順次宮城県に引き渡していったものと考えられる。(p75)	田村勝正	開発の歴史地理-野蒜築港と近代東北の開発を中心に- 大明堂
市街地払い下げとコレラに関する供述。	西脇千瀬	幻の野蒜築港明治初頭-東北開発の夢 藤原書店 2012.12
東北地方に近代港湾を建設するにあたり、野蒜を港湾建設地として選定したことは風・波などの自然条件を考えると、適地であったとは言い難い。(p164)	中井靖 為国孝敏 中川三郎	近代の野蒜築港における港湾立地の実証的研究、足利工業大学研究紀要 2000、Vol. 30、P.157~164
広井勇の『日本築港史』(丸善、1972 年 5 月)に記述されている野蒜築港計画案がファン・ドールンの計画案とみなすケースが少なくないからである。(p117)	仁昌寺正一	公文録に見るファン・ドールンの野蒜築港計画案 東北産業経済研究所紀要 第 31 号 2012.3
従水工事については、オランダの技術水準が高かったことは政府首脳部には周知のことであり、この点でも民部省がオランダの技術者を優先して水工部門に招聘したひとつの根拠だった。(p6)	高崎哲郎	明治初期・オランダ人長工師ファン・ドールン研究-その実績と評価- 土木研究所報告、2006.3.No204

(2) 野蒜築港新市街地の計画思想の分析

野蒜築港の新市街地の計画にあたった人物について、根拠をもって明らかにすることはできなかったが、文献であげられているように、最も有力な人物はオランダ出身のドールンであると言える。しかし、ドールンは鉄道、港湾、河川を専門とした技師であり、都市計画分野は専門ではない。他にも、オランダ人技術士のアルンスト、マストリクト等がいるが都市計画を専門とした人物ではない。野蒜築港計画の研究者である西脇千瀬（東北大学）にヒアリング調査を行ったが（2015.12.17）、新市街地計画の策定経緯に関する資料は発見されていないとのことであった。

野蒜築港は、大久保利通がヨーロッパ各地を視察し、日本の西洋化を推進した計画であったと考えられる。ドールンをはじめとするオランダ人技師の築港計画への参画、大久保利通の視察を考慮すると、オランダの市街地計画が参考にされた可能性が考えられる。次章では、新市街地の計画特性から経緯を探ることとする。

5. 新市街地の計画特性の分析

野蒜市街地区画之義伺（図-3）を CAD 入力し、新市街地計画の特性値を測定すると、以下のようになる。

- 1) 道路幅員 10m。中央の幹線道路延長 530m。
- 2) 外周 2100m。上橋から中橋まで 240m、中橋から下橋は 380m。
- 3) 区画数は一等地 54 戸、二等地 132 戸、三等地 292 戸、四等地 219 戸、五等地 136 戸、官用地 16 戸、民有地 21 戸、遊園 2 戸、計 874 戸。

次に、オランダの都市の市街地と野蒜築港新市街地の計画特性を比較する。河川・海洋に面したオランダの都市を探索したところ、アムステルダム、ノールト地区があげられた。計画地の形状（三角形）、中央の幹線道路、道路網の形状、公園の配置と形状等が類似している点であり、一方、計画地の面積規模は異なる。

以上については、新市街地の計画特性指標を設定し、両地区に関する定量的な比較分析が課題となる。



所蔵：宮城県公文書館

図-3 野蒜市街地区画之義伺（明治 12 年）

参考文献

- 1) 松浦茂樹，上林好之：東北開発の期待を担った野蒜築港の放棄に係る内務省首脳とオランダ人技術者-デ・レーケ(J.de Rijke)がエッセル(G.A.Escher)へ送った手紙を参考に，水利科学，第38巻3号，pp.73-94，1994
- 2) 田村勝正：開発の歴史地理-野蒜築港と近代東北の開発を中心に-，大明堂，1985
- 3) 西脇千瀬：幻の野蒜築港明治初頭-東北開発の夢，藤原書店，2012
- 4) 中井靖，為国孝敏，中川三郎：近代の野蒜築港における港湾立地の実証的研究，足利工業大学研究収録，Vol30，pp.157-164，2000
- 5) 仁昌寺正一：『公文録』に見るファン・ドールンの野蒜築港計画案，東北学院大学東北産業経済研究所紀要，第31号，pp.115-135，2012
- 6) 高崎哲郎：明治初期・お雇オランダ人長工師ファン・ドールン研究-その実績と評価-，土木研究所報告，No204，pp.1-28，2006